

スキー0のメッカ・福島県の磐梯高原。このトレインはフラットでスピードが出る、ネットワークの自由度も高い。施設が充実している。

初めての人から、ベテランまでが口を揃えて「面白い」というスキー0フィールドなのだ。そして今年も熱戦が繰り広げられた。その感想を参加者に聞く。

SKI - 0 J-Cup ミディアムディスタンス
ナイトスキーオリエンタリング
SKI 講習会

加藤一郎 (福島県協会)

スキーオリエンタリングに参加しました。ゲレンデスキーしかやったことがありませんでした。何回か見学したことはあったが、歩くスキーの板も履いたこともありませんでした。

しかし、来月の「第1回福島県スキーオリエンタリング大会」を実施することから、事務局として体験しておかなければと、頑張ってみました。

優勝設定時間が40分のところ1時間49分という散々なものでしたが、フット0とは違った意味での地図読みとかが楽しめました。ハラペコでゴールしました。

福島大会はフットの早稲田の大会と重なっておりますが、是非スキーオリエンタリングの体験をお勧めします。

羽鳥和重

オリエンタリングが好きで、まだスキー0をやったことない方は、先ずどこかで経験してみたほうが絶対いいと思います。何人かに一人はものすごく「はまる」と思います。

私も年に1,2回しかやらないので、あまり大層なことはいえないのですが……

やっとスキー技術も転ばずそれなりに前に進むようになってきたのに、スキー0なんてただただ道を辿るだけのはずなのに……今回のスキー0でも、3~5分程度のミスをはたすら連発、(フット0なら、ぼくにはたった30秒

だってドデカイミスなのに)正置も満足に出来ないわ、(フット0ならコンパスなしでもできるのに)おまけに、ミディアムレースではペナってしまった、(近接でもないのに気づかないなんて?一体どうしたんだ……)

ぼくにとってはスキー0を通して、フット0でうだつの上からない方、フット0は好きなんだけど技術的に駄目ちゃんな方の気持ちが、悲しいことにすぐよくわかるのでした。わたくしスキー0ではひたすら負け組みでございます。フット0では意に介しない相手でも、スキー0ではコテンパンにやられてる。

私よりフットが速い一流エリートで、スキーでは私よりぼろい成績しか出せないタコスキーオリエンティアが欲しいと思うこのごろであります。

小林岳人 (EC 関東C)

(羽鳥氏のボヤキに対して)

重要なポイントはこれらのうまいコーディネートなんだと思います。そこがスキー0の面白いところでしょう。

一寸工夫すると一気にスムーズなプレイとなり、タイムも一気に上がります。スキーの腕前、用具、ワックス技術、ナビゲーション技術、体力等が変わらなくてもです。

ちょっとマップを見るタイミングを変える(早くする)とか、先読みプランするタイミングをずらすとか、リズムをうまくとるとか。

フットだとこのタイミングやリズムが多少ずれても修正の幅が広いけど、スキー0の場合はこれがとても狭い。ちょっとしたタイミングのずれも修正がきかない。

又、読み取る情報も白黒はっきりとデジタル的でなくてはならないわけで灰色の状態に進むことは許されない。

それにしてもピヨン・グスタフソンは怪物だア。あのスピードでいったいいつ地図を読んでるのでしょうか。異次元のナビゲーションテクニックだよ。ノーコンパスのバシ・イコネンとは違う次元での怪物です。

堀江守弘 (東北大 OLC)

僕がスキー0をやってる理由は楽しいからです。スキー0の場合、フット0よりも数段スピードがあり、また違ったオリエンタリングの魅力があります。僕は大学1年の冬初めてスキー0をやったときからその魅力に取り付かれ、今ではフット0より大きな目標を持って取り組んでいます。

この大会では、その魅力を十分に堪能することが出来ました。

このマガジンを読んでいるオリエンティアの皆さんのほとんどはスキー0未経験だと思えます。

スキーもやったことのない人も多いと思います。スキーができないからスキー0をやらないのではなく、一度思い切って挑戦してください。僕なんかもそうですが、スキーがそれほどできない人は、回を増すごとに上達します。そうすると努力した分だけ速くなるわけですから、やってこれほど面白いものはありません。これもスキー0の魅力の一つでしょう。来シーズンは皆さんと大会会場で会えることを期待しています。

パパ頑張って!! 家族総出の応援



酒井佳子 (札幌農学校)

すばらしい大会でした。私のシーズン突入第1戦で第1位。

今年はグスタフソンさんを招いた合宿が4回あり、加えて有志(と、なぜか常にグスタフソンさん)の合宿もあった。

その間に学び鍛えた筋力や持久力、スキー技術、集中力、地図読みの力を総合してかつ王する機会が来た訳で楽しいレースだった。

心掛けていたのは、基本に忠実であること、トラックの幅、傾き、斜度等々によって最も適切な走法を選ぶことだった。

レースでは、2番コントロールに向う際に、約1分のミスをしたが、このミスは気を引き締めてくれた。結局、二つのミスと三つの不適切なルート選択があったが、レース後の気持ちは良かった。欲を言えば1時間を切りたかったが、現実には厳しい。

レース翌日、グスタフソンさんや、運営の山本賀彦さんと研究したベストと思われるルートを滑ったが、62分ちょっとかかった。

大会についての個人的感想だが、トラックの状態がすばしかなかった。細くて曲がりくねって、傾いて、木の枝が飛び出していて、急斜面があって、一方で純クロカン用に整備されたトラックもあり変化に富んでいた。

不整地をスピード落とさず滑る技術は不可欠であり、今回はとても練習になった。逆に今回Aコースで、特に失敗はしていないのに遅かった、という人がいれば、それは細かいトラックのせいかもしれない。私は、モービル道対策として、強い腹筋や不整地に対応できるバランスと脚力を身につけることを大切に考えている。

最後に、運営の皆様へ感謝を込めて、これからも練習に励みます。

運営者の所感

内山孝博 (競技責任者)

参加された皆様、大変お疲れ様でした。スキー0 イベント満喫していただけたでしょうか。

大会当日は、何とか天候に恵まれ、事故もなく無事終了し、関係者一同ほっとしております。

今年は、従来の初心者講習会、ないとしスキー0に加え、ミディウムディスタンスが世界選手権の選考レースに指定され、初心者の体験コースとしてモデルイベントも設置しました。

ところが、今冬は雪不足のため、事前準備がほとんどできず、また、直前の降雪で、ネットワーク、コースがイベン

トごとギリギリにしか確定出来ず、ミディウムディスタンスは構想通りのコースを提供出来ませんでした。



運営の高島氏と内山氏

スキー0 大会の開催は、積雪状況や天候に大きく左右され、開催時期については検討していますが悩まされます。

また、ミディウムディスタンスでは、MAを除いてウィニングタイムがかなりオーバーし、特にBクラスでは大幅にずれてしまいました。これはコース設定上の問題であり、参加者の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。

一方、参加者数は42名と伸び悩んでおり、参加者の面々も固定化傾向にあり、興行的にも厳しいものがあります。

磐梯高原は、「フラットで初心者も気軽に楽しめる」「歩くスキーやスキーハイキング」「雪遊びを楽しむ人たちが大勢やってくる」「スキーマラソン大会も開催される」そして、「スキー0も少しづつ認知されてきている……」こんなフィールドです。

来年は、この特徴を生かした新しい形のスキー0 イベントを計画しておりますので、どうぞご期待ください。

最後に、大会開催にあたり様々な形でご支援いただいた皆様、そして、大会終了後のゴールや会場撤収、コントロール撤収につきまして、参加者の皆様の多大なご協力を頂き、大変ありがとうございました。

成績上位記録 ミディウムディスタンス

MA	タイム
Bjorn Gustavsson	01:01:01
宗形 竜憲	01:14:04
堀江 守弘	01:19:12
4 元木 悟	01:21:20
5 山田 淳史	01:22:18
6 山田 一善	01:36:58
WA	タイム
酒井 佳子	01:07:41
元木 友子	01:28:26
高橋 美和	01:47:35
4 岩谷ひろみ	01:52:16
5 大里真理子	01:57:43
6 成瀬 美希	02:32:56
MB	タイム
鈴木 三郎	01:34:34
石原 久也	01:37:14
渡辺 英男	01:43:18
4 和田雄一郎	01:43:42
5 加藤 一郎	01:49:48
6 高野 健治	02:21:59
WB	タイム
小林 正子	01:09:03
三好 良子	02:01:47
F	タイム
小林 勝利	00:33:25
高橋 順子	01:07:20

ナイトオリエンテーリング

A クラス	タイム
Bjorn Gustavsson	10:01
宗形 竜憲	12:25
元木 悟	12:37
4 山田 淳史	14:01
5 柴田 達真	15:55
6 川崎 輝雄	16:37
B クラス	タイム
荻田 育徳	14:15
小坂 猛	21:23
櫻本信一郎	22:13
4 和田雄一郎	23:16
5 小林 恭輔	25:58

(武石雄市)

会場と
スノー
モービル

